

ワイズスペンディングの徹底に向けた EBPM の強化  
～政策効果を高め、予算の質を向上させる取組～

2020年7月8日

竹森 俊平

中西 宏明

新浪 剛史

柳川 範之

ワイズスペンディングは、政策効果が乏しい歳出を徹底して削減し、政策効果の高い歳出に転換するものであり、歳出の内容を前向きに、不断に見直すことが求められる。新型コロナウイルス感染症の克服に向けて、強力な政策対応が行われているからこそ、「新たな日常」の下で質の高い経済社会を構築するためには、徹底したワイズスペンディングが重要である。

リアルタイムのデータも活用しつつ、データに基づく政策立案を基本とし、足下の感染症対策に科学的な効果検証の成果を十分に活かすとともに、今般の対応や経験を踏まえ、経済・財政一体改革において EBPM の取組を強化すべき。

(1) 経済・財政一体改革における EBPM の枠組み強化

- 感染症を契機として明らかになったデジタル技術の活用等の重要課題や、経済・財政一体改革の主要課題への対応の方向性について、ワイズスペンディングの徹底に向け、エビデンスを構築して検証すべき。
- エビデンスに裏付けられた効果的な政策や、その構築に向けたデータ収集、分析・評価の取組に予算を優先するなど、EBPM の仕組みと予算の重点化、複数年にわたる取組等の予算編成との結びつきを強化すべき。その際、地方自治体等によるエビデンス構築の取組を支援すべき。
- 経済・財政一体改革推進委員会において、体制を確保しつつ EBPM の枠組みを強化し、有識者や研究機関等の協力を得て、各府省とともに、政策の質を高めるためのエビデンスを継続的に構築すべき。 こうした取組を各府省に整備された EBPM の体制において進め、より一層の機能発揮につなげるべき。

(2) 経済・財政一体改革推進委員会における取組

- 新経済・財政再生計画の複数年度にわたる重要政策等について、KPI や先行研究を参照したロジックモデルを活用しつつ、因果関係の視点から成果を検証し、毎年度の予算に反映すべき。
- デジタル技術や民間活力の活用、社会政策などの分野から具体的なテーマを設定し、プライバシー保護への信頼を確保しつつ、科学的な効果検証を行うべき。 このため、関係府省は税務情報などの行政記録情報やビッグデータ等の活用拡大に向けた取組を年末までに工程化すべき。
- 各府省はこれらの 重点課題等の見える化を徹底し、地方自治体等の特徴に応じた処方箋化と横展開、インセンティブ改革等による課題解決につなげるべき。

(3) 専門的知見の活用

- 学会等を通じて有識者・研究機関・行政等による EBPM のコミュニティを形成し、政府内外での人材育成、先行研究によるエビデンスの蓄積、目利き力のある政策担当者による研究成果の活用につなげるべき。
- 経済・財政一体改革、政策評価、行政事業レビューそれぞれの知見を相互に補完しつつ活用すべき。